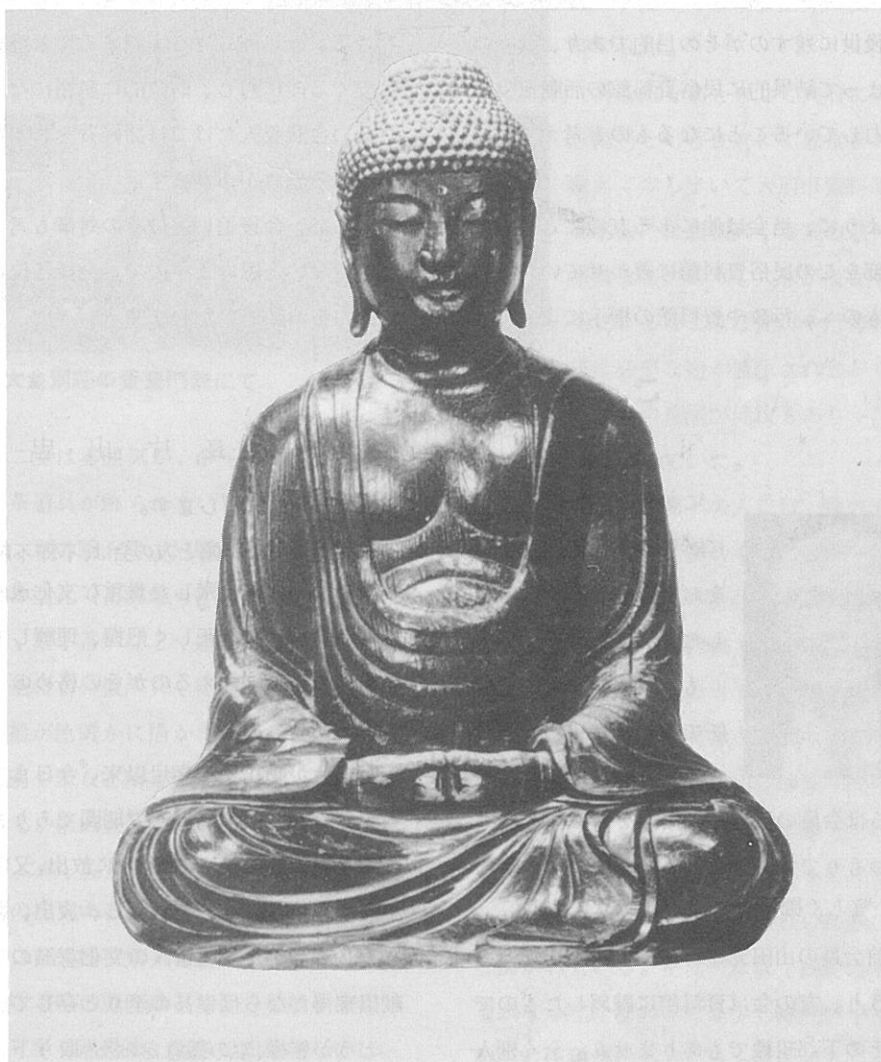


常滑市民俗資料館

友の会だより

第6号



木造阿弥陀如来像 樽水 洞雲寺 蔵
高さ 87.0 ㎝

平成元年9月発行(1989)



有意義な友の会の活動

常滑市教育委員会
教育長 竹内鉄英

日頃は友の会の活動を通して、民俗資料館の事業にご協力いただいたり、また先人の残された文化遺産の発掘やその研究等、盛んにご活躍されておられることに心より感謝と敬意を申し上げます。

さて、世の中は科学や技術がどんどん発達し、知識や使っている道具は進歩してきております。しかし、ある学者は「人間の心は太古の昔から少しも変わってきてはいない。だから人間は、新しい時代になっても、先人の知恵や教えに謙虚に耳を傾けたり、学ぶ心を持つことが必要である」と、言っておられます。

最近、21世紀の新しい時代に向けて、国際化ということが盛んに言われております。教育の分野でも、国際社会に生きる人間の育成をめざし、国際理解の教育が重視されるようになりました。国際理解の教育とは、第1に外国の人々

の生活や文化をよく理解し尊重する心を育てること。第2に自分の国や郷土の文化や伝統を正しく理解し尊重する心を育てること。第3には英語の力を伸ばし表現力をつけることであります。つまり、自分の国や郷土の文化や伝統が正しく理解できなくて、外国の人々の生活や文化を理解できるはずがないわけであります。これから新しい時代を生きていく小中学生や高校生のいずれにも、自分の国や郷土の文化を正しく認識させていくことが大切であります。

このような意味から、会員の皆様方の地道な研究活動は、まことに意義深いことと思えます。今後とも、一層活発な活動を推進され、友の会の益々のご発展と、この地道な研究活動が、更に多くの人々に広がっていくことをご期待申し上げます。

さらに活発な活動に期待

常滑市民俗資料館長 長谷川 進



当館友の会が、その目的である資料館活動に協力し、郷土の文化遺産を守り、歴史、民俗に関する知識を深め、親睦を図ってゆく、この目的に向

って活発な活動を8年間に亘って続け、今日まで数々の成果を挙げてきたことに対し深く敬意を表します。

当館と共催で第3回目を終った“わが家の歴史展”は、その資料の発掘やそれに至るまでの手だてなどについては、会長を始め会の人々の精力的な努力によるものであります。とかく、

自分の家の古い資料は見せたい反面、諸事情が障害となって見せにくいものです。その困難な状況を克服して開催にこぎつける努力は、なみなみのことではありません。

また、友の会だよりも第5号まで発刊されました。このような機関紙は、とかく永続きしないのに拘らず、わが友の会だよりは回を追うごとに内容が充実したものになって来ました。

このように、すべての活動が資料館の少ないスタッフの手の届きかねる部分に大きな力となり、さきに発刊された中村家文書には、当会の古文書部会の研究成果が少なからず反映されて

いますし、資料の収集や調査についても、協力部会や郷土史部会のご協力によってバックアップされ、資料館の活動を今日まで円滑にすすめてくることができたと言っても過言ではありません。

せん。

今後も友の会は、当民俗資料館と車の両輪のようになって、互いに力を合わせ、知恵を出し合って一層発展することを期待しております。

中村常滑市長を囲んで



去る4月28日(金)、当会の総会開催予定を前にして、はからずも市長さんからのお声がかかりによって、当会発足以来初めて中村市長さんを囲んで、懇談の場をもつことができましたので、そのご報告をいたします。

予定は午後4時からでしたが、20分も早く市長室へ通され、みな自由な雰囲気発言させていただきました。

始め、わか家の歴史展開催の苦労話から、元永平寺管長 森田悟由師の資料収集が不調に終わって、常滑の隠れた大人物の軌跡が顕彰できないで残念だったことや、大谷の鈴溪義塾での溝口幹先生の優れた教育の話題など、話は活発にはずみましました。

特に市長さんから「にほんブログ村はその後盛んにやっていますか」と質問され、一瞬みな何のことか意味がのみ込めませんでした。すぐ古文書の解読のことと分かり、全員が爆笑、急に室内が一段と和やかになって、更に話の花が

咲くことになりました。

それにしても、建築ブームで古い建物の建て替えなどがすすむにつれて、古い資料が急速に消滅してゆく恐れがあり、早急に手を打つ必要がありますので、これらの収集費をぜひ予算化していただくようお願いいたしました。懇談は実に1時間に及び、午後4時30分有意義に終了しました。

時節柄、多忙を極める中村市長さんが、このように長時間に亘り、貴重な時間を割いてご懇談いただいたご好意に対し、この紙上をかりて厚くお礼申し上げます。

日時 平成元年4月28日 午後3時40分
から4時30分まで

場所 常滑市役所 市長室

出席

(市)中村市長、竹内教育長

(友の会) 山田勝治、片山忠義

衣川俊平、村田 御、高松久春

中野健三、間瀬明治、渡邊榮造

(文責 渡邊榮造)

美術よもやま話

かってドイツの或る哲学者が、我々の文化生活に必要なものを、大別して、真善美の三つに分類し、さらに用を加えました。その用とは真善美をうまく運用するために必要なものとして政治経済があるのだと云いました。

真とは、真理の研究、探究、いわば、一般的な学

山田勝治(一犁雨)

問のことをいいます。善とは、人間社会に於ける倫理、道徳、宗教などの精神的なものをいいます。

美とは、すなわち芸術です。

次に芸術を分類しましょう。

1.文芸……言語をもって意志、感情を表現する。

小説、詩、和歌、俳句、脚本等。

2. 絵画……平面（縦と横）の中に色と形で表現する。

3. 彫刻……立体（縦と横と高さ）で表現する。

4. 工芸……工芸、建築は立体的要素の中に用途

5. 建築……が加わる。

用途が大きくなればなるほど、美の範囲が小さくなっていく。機械道具類の形がそれであります。

6. 音楽……音を使って表現する。

7. 映画・演劇・舞踊……音楽と文芸に更に美術的なものが加味されて出来たものです。

美術の中にも純粋美術と、応用美術があります。純粋に美を追求した絵画彫刻。使用目的のあるものを応用美術といいます。

また、言い方をかえれば、文芸は言語芸術。と、直接目を通して観賞する美術、映画などは視覚芸術といいます。

耳を通して聴く音楽を聴覚芸術といい、また口から味わいながら芸道にひたる茶道があります。これを味覚芸術ともいいます。

こんどは鼻を通してその香を嗅ぐ香道もあります。これを臭覚芸術といいます。

さて美術に携わる作家は、どうしたら、どの様な効果と感じが出るか常に苦心をするところでもあります。次に表現と効果について考えてみましょう。

平面と立体美

平面的でも立体的でもそれぞれの美しさはあります。昔から東洋（日本）は線と色を主とした平面構成の作品が多い。しかし西洋では光と影をつかって立体的に表現するのが特長です。

線を主体とする日本絵画では立体感を出しにくい関係上、顔を描く場合正面をさけて、7分3分の傾斜した角度から描いております。

源氏物語などの顔、引目、釣鼻、また江戸時

代の浮世絵の顔の表現には殆んど正面を扱ったものはありません。

このように、日本人は昔から平面的な美しさを尊んできました。

たとえば和服を取り上げてみますと、前と後に重点をおき美しさを出しています。平面的に構成されているので平面にたぐんで収納できます。しかし洋服は曲面で構成されていますのでそれが出来ません。

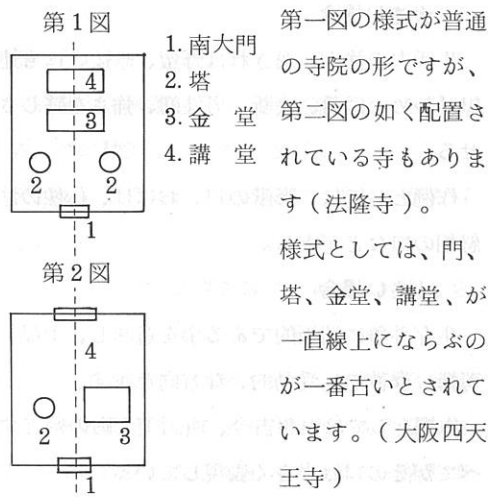
日本語に後ろ姿という言葉がありますが、これはたゞ後ろの形ということでなく、その美しさをも表現して文学的情緒があります。これに匹敵する様な外国語はありません。しかし、プロフィール（Profile）という言葉はたんなる横顔という言葉でなくて、立体的にとらえた、人物評論で含蓄のある外国語で日本にはない言葉の意味を持っています。

しかし、日本女性の服飾美の中にも日本髪だけは立体的に構成され数少ない例外の一つです。

左右相称（Symmetry）シンメトリー

左右不相称（Asymmetry）アスシンメトリー

左右相称は右も左も同じ形をい、人間の直立不動の様な形態です。これは、整頓、崇高、厳粛、安定、等の感じをあたえます。作例としては、神社、仏閣、等がそれです。



又、灯籠は正面に一つだけあるのが古い様式です。東大寺、唐招提寺、新薬師寺等。

彫刻では仏像、神像、などがあります。

左右不相称の場合

自由、変化、動的、風情、情緒、等の感じを受けます。

作例としては、日本の茶室建築、庭園、彫刻では仏像の内でも、天部（仁王、四天王、等）のものは動的で不相称の場合が多い。

大、小による美的効果

これは実際より大きく、又小さく表現したらどの様な効果がでるかということです。

目の場合

こゝでは、瞳（瞳孔）眼球の中央の黒いところ、大きい場合は、黒目勝ちな円らな瞳、可愛いなど、いい意味に解釈される場合が多く、例として動物の、馬、キリン、ラクダの目など、目的によって大きく表現すると効果がある。

小さい場合

白眼、冷眼、など強く感じる場合が多く、虎、鷲、竜、等の目。仏像、天部などの忿怒相の目がそれである。

口の場合

口は食物摂取や言語発表の器官としての実際的エネルギーの力と量を示す関係上

大きい場合

生活力の強大、過ぎれば野蛮、獰猛、にも連想せしめ、武勇、決断、男性的、強さを感じさせる。

作例としては、野獣の口、おばけ、仏像の忿怒相の口などがある。

小さい場合

生存斗争に消極的である事を意味し、上品、可憐、女性的、受動的、な方向を示す。

作例としては東西古今、所謂美人画の殆どすべてがその口は小さく表現している。

西洋のマリヤ、日本の絵巻物、浮世絵、など幼児の口に類するものも多く見出される。神とか天使、麗人、佳人、の口も同様に表現されて上品とか斗争的でないという点で同類なものであろう。

動的表現

とは、本来美術は静的なものであるが、如何にして動的表現をするかという問題にある。

例えば人間、車、などを走っている様に表わすにはどうしたら効果が出るか。

動いている時しか出ない形を選ぶ。

動いているものの、そばに止まっている形をおく、即ち白のそばに黒をおく様に反対のものを持ってきて引き立たせ、それらしく見せる。

尚、補助物をつかって、その効果を一層つよめる。など作者の苦心するところもある。

美術作品の真実との違い

制作する場合、物を忠実に写しても感じが出ない場合があります。そこで作者は意識的に変形させその効果を出します。これを芸術的変形、デフォルメ(diforme)といいます。

江戸時代の浮世絵の内でも鳥居清長などのものは、八頭身から九頭身もあります。

また、外国の作家、モディリアニの首の長さやピカソの顔の表現など多く思いあたる事と思います。

しかし、一方には真実のつもりが観察不十分で間違っている場合もあります。江戸時代写生派の大家、円山応挙ですら、鶴の尾の部分の黒く描いていますが間違いで、実際は風切羽の元のところが黒いのが本当です。

以上、真実とは違っても作品の良し悪しには関係ないことをつけ加えておきます。

事実は小説よりも奇なりという諺がありますが、我々作家は事実よりも奇なるものを作りたいと願っております。

乾坤院について

村田 御

去る5月25日見学会の帰途、緒川の乾坤院を訪ねましたが、折悪しく雨が降り出し、約束してあった住職が不在で参拝も出来ませんでした。翌日になって乾坤院から住職が急病で入院したため、皆さんに大変な御迷惑をおかけし申し訳けなかった、と云って御詫びの電話がありましたのでお許し頂きたいと思います。

そのつぐないにもなればと思い、乾坤院の概略をお知らせいたします。

乾坤院の所在地は、知多郡東浦町大字緒川字沙



弥田四番地で、山号を宇宙山といい、寺格は曹洞宗中本山別格地といわれ、曹洞宗総持寺末大洞院（静岡県周智郡森町にある）大源派下の川僧慧济禅師の根本道場でありました。

境内外の寺域は3万6千坪（118.8ヘクタール）の静動一如の禅風を思わせる聖域である。中央部の平坦地に七堂伽藍が残っています。

俗界を離れた仙境、堂宇は古色蒼然として松杉に囲まれた清浄境であります。

開基は初代緒川城主水野藏人貞守公で、小川水野家は鎌倉・室町の時代から代々、小川の地頭職で緒川字高菰の地に広大な邸宅を構えて、近隣を支配していました。

貞守のとき衰微していた水野家を再興して、文明七乙未年（1475）5月緒川に城を築いて初代の緒川城主となりました。

現在、緒川字家敷にある東光寺は、もと逆翁庵といい、逆翁宗順禅師の開山になるもので、小川水野家代々の菩提寺となっていました。貞守はこの逆翁禅師に帰依して親しかったので築城に際して城の護りのために乾坤院の創建について相談した。

寺の古記録によると、

一日遊山の次謂曰、「安禅之処、師之を図れ、我、当に戮力して外護たる可し」

師、指して曰く、「此の幽邃之境乃ち然る可し。……」

とあるが、これが開創の端緒であったと考えられます。

これによって貞守は村の西方に城の構築と同時に、その守護として宇宙山乾坤院を創建した。この創立に尽力した宗順和尚は、師の川僧慧济

禪師を勧請して開祖とし、自らは次祖(二世)となったのであります。

然して三世芝岡宗田、四世は逆翁の三高弟周鼎中易・太素省淳・享隱慶泉の三和尚が勤めました。

四代城主水野右衛門太夫忠政(徳川家康の生母、於大の方の父)は乾坤院擁立の四本柱として宗順の三高弟の開山になる末寺、三河吉田在伊奈村の東漸寺・同御油在八幡村の西明寺・同赤坂在萩村の龍源寺・尾張知多常滑村の天沢院の四ヶ寺を門首とした。

乾坤院は末寺六十余ヶ寺(尾張三十二、三河十、遠江十三、紀伊二、備前一、備後一、奥州一)で孫末を加えると五百余ヶ寺に及び、東照公家康の生母であり忠政の息女である於大の方より三里(11.8軒)四方の山林を寄進され、代々の尾張藩主より年貢三十一石七斗余の黒印地として経済的基盤は確立しており、その権勢を誇っていた。

四世の三高弟の協議の結果、以後三派が互に協力して助け合い、法を伝えて行くことに定め明応九庚申年(1500)八月より二年毎八月朔日をもって交替することとし、五世は周鼎派の天沢院雲関殊崇から順次六世太素派、七世享隱派、八世周鼎派というように輪番制をとることにした。それによって歴代の住職は、三派六十余ヶ寺で六十六世までは二年交代で来たが六十七世大野の斉年寺通国呑達より明治の初期二百九十一世浄通院雲澤得明まで、一年交代で曹洞宗の禅林道場の古刹として栄えて来たが、明治維新の政変により祿を絶たれ、輪番制も名のみとなり、伽藍は廃頽し、維持が困難となり廃寺の運命に直面したため、その伝統を破り独住制となり、明治七甲戌年(1874)八月朔日より独住一世(水野)拙禅祖成、二世盛巖寺(大森)無外、三世西明寺(大江)白庵雲樹、四世中興、良参寺

(橘)大応成典、五世円福寺(糟谷)祖典大修、六世安泰寺(桑原)戒順至道、七世景勝院(野田)謙光道環、八世報恩寺(鈴木)春山岱州、九世聚福院(米本)雲峰孝巖、十世影向寺(長尾)禅巖説道、十一世鷲見透玄(昭和39年4月晋住)と独住制が続き現在に至っている。

◎仏像、宝物、建造物について

1. 仏像

本尊 大通智勝仏 一尺八寸八分 釈迦牟尼仏 八寸八分(胎内仏)非思量の座禅の姿である。

寛永十二乙亥年(1635)頃、刈谷城主松平主殿頭忠房の母堂の発願で京都の仏師の作である。

○大権修理菩薩像

○達磨大師像 は廟堂入口の左右にある。

○歴代住職の木像・位牌(開山堂に)

十六羅漢像(山門上より本堂に移して祀る)

○草駄天尊像

○大黒天像(塑造)

○石坂子安観音像

○弘法大師像

○地藏菩薩像 などあり

2. 宝物

○着色弁財天図、絹本、鎌倉末か室町初期のものといわれ作者不詳(県文化財)

○十六羅漢図 絹本 南北朝時代のもの
諸尊集合図ともいう 兆殿司筆?(県文化財)

○正法眼蔵写本 十五冊 正法眼蔵七十巻を十五冊に書写したもの(本袋綴)

永享二庚戌年三世宗田の奥書のあるものもあるが書写年月はさだかでない。

(県文化財)

○阿弥陀如来画像 絹本 室町時代のもの

○涅槃図 絹本 法橋宗運の筆

縦一丈三尺 横九尺

- 聖徳太子絵伝 絹本 筆者不詳
- 布袋画像 紙 雪舟の筆といわれている
- 川僧禪師自画自讃図 紙
- 二代城主貞信公 八才の書 春屏風片双
- 錫杖 逆翁和尚の使用と伝えられる。
- 刈谷城主水野忠重の祠堂米寄進状
- 尾張初代藩主徳川義直公の寺領黒印状
- 喚鐘 高五寸 径三寸

永正十癸酉年(1513)小川、下野守後室
禪尼賢貞寄進の銘あり

- 鼠燈 二世逆翁の作という。油皿の鼠の口より、灯が消えかゝると油を吐くという。
- 根室塗大香合

3. 建造物

- 宝蔵 本堂の北にある
- 堅雄堂 寛文十庚戌年(1670)二月十二日岡崎城主水野監物忠善が先祖供養のため建立したもの。三間四方の瓦葺本尊は千手観世音菩薩で、水野家歴代の位牌を祀り、忠政、忠善の木像が安置されている。
- 開山堂
- 本堂 正面の寺号乾坤院の額は創建のときの城主貞守公の書である。
- 方丈・書院
- 庫裏 元禄十一戊寅年(1698)の建立
- 僧堂 衆寮又は示現堂ともいう、明和二乙酉年(1765)建立
- 山門 天和三癸亥年(1683)竣工、階上に十六羅漢像を祀る。山号「宇宙山」額は寛文十庚戌年(1670)隠元和尚の直筆である。
- 鐘楼 大正二年秋建立
- 地藏堂 清四郎堂とも云う。享和二壬戌年(1802)建立

○離書院 渡り廊下階段と共に大正十二年新築したもの

○稻荷堂 宇宙稻荷天と云い、明応年中(1492~1500)緒川城主が京都伏見より勧請して城内に祀ったもので、慶長十六辛亥年(1611)に境内へ遷座したものである。昭和60年再改修して現況とする。毎年1月5日、交通安全祈願祭。

4. 墓所

城主三代の墓は寺の東蛭藻池の東の丘上にある。五輪三基は

初代 寛祐院殿玄室全通大居士。

二代 大元院殿一初全妙大居士。

三代 祥雲院殿宝幢堅勝大居士。

境内、堅雄堂の西南に、四代 長江院殿大溪堅雄大居士。寛文二壬寅年(1662)建立である。

四代の墓の南の大五輪三基は忠政の子孫三代の墓である。忠政の子、織部正忠守は、光照院月叟芳心居士。忠守の子、監物忠元は、萬松院休翁宗罷居士。忠元の子、監物忠善は、鉄性院破鐘了勘大居士。

大五輪の西南に於富の方(忠政の後室、於大の方の生母)の墓がある。華陽院玉桂慈仙大禪定尼があり、いずれも建立は不詳である。

◎主な年中行事

1月5日交通安全祈祷会、2月の二の午の日家門繁栄祈願法要、3月15日前後の日曜日涅槃会、春祭り、4月17日人形供養、花まつり、8月17日孟蘭盆法要、10月17日人形供養、11月15日開山忌、毎月17日観音講法要、参禅会は毎月第二、第四の土曜日午後6時半より自由参加で行なわれる。

このほか会社、各種団体、グループ等の参禅研修、宿泊に随時利用されている。

大府の大倉公園と常滑



大倉孫兵衛

輸出陶器の大手、森村組〔現森村商事(株)〕の重役・大倉孫兵衛は、明治22年(1889)頃から朱泥龍巻製品の仕入れのため泉屋(現水野屋)

を定宿としてしばしば常滑を訪れ、当時の常滑を代表する人々との親交があった。そして後には、泉屋の女将の懇請を受けて女将の孫・水野宗右衛門(のち常滑町議)を日本陶器(現ノリタケ)へ入社させるほど泉屋とは親しかったようである。

明治37年(1904)日本陶器を創立、嗣子大倉和親を社長に就任させて、数年。洋風の衛生陶器生産を考えていた孫兵衛は、併せて下水の整備も必ず必要になると考え、高級な陶管の製造も検討し、東海道線と武豊線の合流点大府の将来性に着目して、明治44年(1911)大府駅から500m～600mの位置にある丘陵を含む広大な土地を取得し、最新式陶管工場建設の構想を練っていた。

しかし、大正6年(1917)伊奈製陶(現INAX)との提携が成立し、最新式の食塩釉薬陶管を生産する目途がついたため、大府での陶管生産を見送ることになった。もしこれが実現していたら、常滑の土管業者には東京資本の強大なライバルが現れていたことになる。

さて、大正9年(1920)孫兵衛は、常滑町の山方に住む常滑陶器学校で轆轤(ロクロ)を教えていた肥田浅太郎を呼び寄せ、敷地の一角で植木鉢の製造に当らせる傍ら丘の上に立派な別荘を新築、囲りの丘陵一帯に桃の木を植えて春には地域の人々の眼を楽しませていたが、大正10年(1921)12月、孫兵衛は病を得て東京

麻布一本松町の本宅で78才の生涯を閉じた。

孫兵衛の死とはかわりなく、桃の木はすくすくと成長し、昭和初期の春には別荘周辺が桃の花で埋ったという。現在は桃のかわりに桜が大きく成長し、「もとは桃山、いま桜山」と大府音頭に唄われるほどの桜の名所となり、更に花添えてつつじも人々の眼を楽しませている。

大倉孫兵衛・和親父子は早くから青年の育英に極めて熱心で、東京の本宅にはいつも何人かの青年を寄宿させ大学へ通わせていた。肥田浅太郎の長男は東京高工(現東京工大)へ、樽水の稲垣某は慶応大学へ通学していたといわれる。

大倉家の湯ヶ原別荘には、大正14年(1939)の暮れ、当時10才の澄宮(現三笠宮)が二週間も避寒のためお泊まりになるなど、高貴な方々との交流も深かったにもかかわらず、大倉父子は叙勲等国家の榮譽を一切受けることなく専ら事業家としての道を歩み続けた。

そしてまた、大倉和親も昭和30年(1955)79才でこの世を去った。しかし、苦心して育成した事業のノリタケ、東陶機器、日本碍子、日本特殊陶業、INAXが我が国の陶磁器五社といわれるほどに成長発展していることがなよりの勲章かもしれない。

戦後、大倉家は丘陵の一部を農地改革等で手放したが、残りの土地はすべて大府市に寄付し、これが現在の大倉公園となってその一部に歴史民俗資料館、福祉会館が建てられており、大倉家の往時を偲ぶものとしては、公園の高台にある別荘の建物と立派な萱葺き門が残っているのみである。

なお、昭和10年(1935)頃、名古屋駅(現JR)の新築に際し、現大倉公園の一角を崩した土砂が高架部の盛り土などに使われたことは、あまり知られていない。

(文中敬称略 一文責 渡邊榮造)

徳川美術館、大倉公園、乾神院見学旅行記

増田 静子

曇空の道を名古屋へ向う。それぞれおしゃべりが弾む内に徳川美術館の由緒ある門の前に出てその横の駐車場に着く。お庭の中を通り美術館入口に出る。新築間もない立派な美術館はゆったりと迎えてくれた。第一室は鎧具足、太刀や火縄銃など、徳川時代始め戦国時代の物であ



大倉別荘の萱葺門前にて

ろう。第二室は雰囲気、がらり変って茶室風の部屋に茶道具が飾られている。李朝や室町時代の茶碗、明の茶入等、只感心して見る。第三室は大名の室礼「書院飾り」、中央床の間に三幅の掛軸、花、香炉など、違棚にも香炉茶碗等飾られ、その右の板戸に、牡丹や花鳥人物など、中国風の絵が色鮮やかに描かれている。左の方に飾られた硯や筆など殆どが明のもの、又は南宋としてある。第四室は能舞台が作られ、中央に能衣装が二点、脇に一点展示されて、能面や能衣装が壁の方にある。

第五室は三代将軍家光の長女千代姫が、尾張徳川家へ嫁ぐ時の調度品、初音の和歌を散らした蒔絵の立派な道具類、溜息の出る様な物ばかりである。特別展は、「能の華」と題し、梅若六郎家能面装束から展示されている。衣装は柄が大きく色も鮮かで、唐織というのなどは厚く

て重たそうで豪華なこと此上ない感じである。30点程も飾られていたと思うが、只目を見張るばかりである。面は女面のやさしいの、悪役の恐ろしそうなもの、悲しげなもの、翁のもの等沢山あり、これを付けて舞うのを見たいものと思う。3、400年も前にこれ等を使っていたの

かと、優雅で豪華な世界に浸ったひと時でした。

美術館をあとにして大府に向う。五右衛門という食堂にて昼食をおいしく戴き、少し歩いて大府市資料館に着く。展示室には農機具、養蚕の道具、生活用具などがあり、人形が夜なべ作業をしている。二階は提灯や行燈等昔の生活に必要な物が展示され懐かしい。大府の昔の地図が何枚もあり、川の治水

の大変さも書かれていた。

こゝを出て大倉公園への入口は、萱葺屋根の立派な門があり、広い庭の中程に家が一軒ある。大倉孫兵衛という人の別荘で、大正の始め頃この地で陶管の製造を計画したとか。しかし伊奈製陶と提携する事になりこゝでの生産はなかったそうで、別荘として木々の間を散策できる静かな庭でした。次の宇宙山乾坤院へ向う頃から雨が落ち始め、着いた時には本降りとなった。池にかゝる朱塗の橋を渡り山門をくぐる。敷石の両側は石庭として砂利がきれいに筋目を立てて掃かれている。正面に本堂、両側にも建物、なかなか立派なお寺だ。少し時間が早く着いたのでお住職がいらっしやらないとて、本堂横手のお墓へ行く。小高い所に監物廟と祖先の墓、少し横に親子三代の立派なお墓が並んでいる。常滑城主水野監物の本家だそうで、大きなお墓

に権力を伺う事が出来るようだ。年月を経た石段は少し傾いたのもあり、雨にぬれているので気をつけ乍ら下りる。本堂の軒でお住職を待つ。大きな蘇鉄に当る五月雨の音を聞き、立派な屋根から落ちる雨だれを眺め乍らしばらく待つが、雨の寺で人を待つというのも佗しいものだ。時

間が過ぎてもいらっしゃらないので帰る事になる。後でお住職が急病で入院したのですみませんでしたと、電話があったそうで、人生いろいろな事が起るものと思う。とにかく多くの物を見学出来て、よい一日でした。

秋季見学会のお知らせ

秋深まる美濃路の、大矢田神社（奈良時代創建）に詣で、楓谷の山紅葉（天然記念物）を探勝し、関市で日本刀の古里を見学、さらに“関の吉田観音”と親しまれている新長谷寺を訪ねる秋の見学会を行います。

予定日 11月16日（木曜日）

行先 岐阜県美濃市大矢田神社、楓谷探勝
関市、日本刀鍛練見学
新長谷寺、春日神社

会費 2,000円

申込期日 10月22日（日）

○期日までに、必ず往復はがきで事務局までお申込みください。

ふるさと創生事業に 友の会から提案

常滑市のふるさと創生事業〈自ら考え自ら行なう地域づくり事業〉に、当友の会は“つちのこ会”と連名で、陶祖鯉江方寿旧邸の移転、復元を提案し、第二次審査を通過しました。

去る、7月19日、友の会々長片山忠義氏、副会長衣川俊平氏、つちのこ会長鯉江俊三氏に常滑市文化協会々長大岩和雄氏、副会長伊奈立江氏のご列席もいただき、中村市長に面接し提案文書をお出ししました。

その結果、アイデア総数267件の内、本件は18件の議会審議案件に加えられ、近く審議が行われます。実現に向けて会員各位のご支援をお願いいたします。

表紙紹介

昭和44年4月1日 常滑市指定文化財

頭部体軀共に、一木から刻み出された阿弥陀如来座像である。膝前は別木で、恐らくこの部分は本体よりも後代のものと思われる。体軀も両腕の外側に矧ぎ木をしている。背面には短冊型に内刳を施してある。定印を結んだ両手も後のものである。頭部、体軀共に肉付よく、側面観も堂々としている点や、衲衣が腹上までつゝんでいる点などは、古様で恐らく12世紀もそう下らない頃の制作かと考えられる。全身黒色を呈しているのは、恐らく失われた膝前を付加えた際、本軀との色を合わせるために塗られたものではなからうか。

本年度趣味の交換会

中止のお知らせ

例年11月、文化の日に行ってきました趣味の交換会は、都合により本年は中止いたします。

平成元年9月21日発行

発行 常滑市民俗資料館友の会
常滑市瀬木町4丁目203番地
TEL 〈05693〉4-5290
有線 54-429
印刷 有限会社 興起社